

中野一和志
山口佐吉様

おまや湯はる
育てをあつらひるぬれ
大手をあらへ化してゆく
むじめをあわせ
里上源の水を力にゆき
今朝は晴幸いに足りぬ
ハタチ生ヌリはアラ社には
渾沌の氣をもたらすが故に
竹立山一役は至難
かく一朝の事は感動するに耐え
てゐる

とおれの事は感心へんに耐え
現るはよしとあゆみに
延續ふる所 実をばけ
て身を有つて後伊に就く
極をもよおしえりはあく
内にれり思ひぬて以すか
わらはナーナ右圖の如き
をみては口にほの間
はあらじとぞ思ひしにあら
用囲碁せんにあらねば後伊
サ 好むはせば極を
名手のえりは一歩の間
陣ふ四道のかかげ
口又ツたとせ張開す

其の第一策はまのめに五郎
六の角にほて立る上
みれの事ちよそに見事
やうがにほの車

城
一言甚

す角に付く
山門ある



山門の事

山門高木

山門

三月廿三

中身老けに山門
山門あれやうに先さ
山門の事山門